

じっくり心をこめて

スロー フード

63



たけのこご飯

5月17日は、高山祭りといい「戸外で飲食すると運が開ける」といわれ、たけのこ料理や煮物やいわし料理を持ち寄って食事をしていました。今回は、今が旬の「たけのこ料理」をご紹介します。

《今月のご紹介》

関川村食生活改善推進員 の皆さん

材 料 (4人分)

- ・米 2.5合 ・だし汁 500cc ・ゆでたけのこ 小1本
- ・薄あげ 1枚 ・しょうゆ 大さじ2 ・酒 大さじ2
- ・みりん 大さじ1 ・塩 少々
- ・木の芽(あれば)適量

作り方

米は研いでザルにあげ、水切りしておく。
たけのこの穂先は、たて半分に切って薄切りにし、他の部分は薄くいちょう切りにする。
薄あげは油抜きをして、せん切りにする。
炊飯器に の米とだし汁、調味料を入れてさっと混ぜ、の材料も加えて炊く。
十分に蒸らして器に盛り付け、木の芽を散らす。

たけのこのゆで方

- ・たけのこの穂先を斜めに切り落とし、実を傷つけないようにたてに包丁で切り目を1本入れる。
- ・鍋に水と米ぬかひとつかみ(または米の研ぎ汁)、赤とうがらし1本、たけのこを入れる。
- ・水加減はたけのこがかぶる位にし、落し蓋をして中火で1時間位ゆで、火を止めてそのまま冷ます。
- ・冷めたら皮をむいてよく水洗いする。

せきかわ文芸

短歌

揚げひばり雲間に姿みつけたり降りるは 佐藤 庄七
おりるさえずりもりもあり (愛広苑)

かたばみ短歌会作品

久びさの春日に天は病葉を払い清めて庭に 小池 啓子
佇む

昨日晴れ今日は雪とて庭隅に福寿草は春を 須貝 恵美
ささやく

さえずりに耳をすませば雲雀の声枝々渡り 山口 藤枝
頭上とび行く

摘まみ食い今しせむとす夫の手に着もつべ 渡辺千恵子
しと吾は言いたり





国重要文化財「渡邊邸」は文
化十四年（一八一七）に建築さ
れた約三十万枚の板と一万五千
個の石で構成された日本最大規
模の木羽葺き石置屋根の建物で
ある。この屋根を親子二代にわ

近・現代 関川郷の人びと

執筆：佐藤貞治（「せきかわ歴史とみちの館」館長）

鈴木 弘

たつて守り続けてきたのが鈴木
弘さんである。

鈴木弘さんは大正十四年二月
二十八日関川村下関渡辺三郎の
二男として生まれた。父親は屋
根葺職人であった。鈴木さんは
高等小学校を卒業してすぐ満十
四歳で父親に弟子入りして修業
に励んだ。「技は口や手で教え
られるものでない。見て覚える
ものだ」と言われ、持ち前の負

けん気で技術を身につけた。戦
争で兄が戦死、また父の病気で
二十五歳頃から一人で屋根に上
った。一人前になるには十年は
かかるという木羽割と屋根葺き
である。一番難しいのは木羽割
である。最も大切なことは「木
を見る」ことだという。つまり
木を見て大割にする時に、節の
位置とか年輪によって、木羽が
取り易いように大割にする。う

まく大割するには経験を積まな
ければならない。木羽の材料は
信州ではさわらや栗を使うが、
この地方では杉である。八十年
以上の直径一尺三寸以上の木が
油気が多く木羽としては最上で
あるという。

ナタで割った木羽は繊維に沿
って割れるので榎目がくつきり
と現れる。雨水は榎目に沿って
流れるため雨もりはしない。
また重ねた時板と板との間に

すき間ができるので機械仕上げ
の板と違い毛細管現象による水
の吸い上げはないという。

昭和三十年頃まで渡邊家には
蔵などの付属の建物を含めて七
百坪の石置屋根があった。屋根
を二分割して二年ごとに板の表
裏と上下を返して葺き替えをし
てきたが現在は四分割して葺き
替えをしている。

戦前は木羽葺き石置屋根が民
家の九割を占めていて、木羽葺
職人も村内に十数人もいた。し
かし戦後は民家の屋根は殆ど瓦
屋根に変わった。木羽葺職人も
年々減少し、今では本格的な職
人は鈴木さん一人となった。平
成十年三月新潟県より保存技術
の保持者の認定を受けた（選定
技術者新潟県第一号）。

鈴木さんは木羽葺石置屋根だ
けでなく竹くぎを使う柿板葺き
も手掛け、寺などの文化財を中
心に全国百六十四ヶ所の屋根に
かかわった。渡邊家の将来のこ
とを考え、数年前から三人の弟
子に着々と技術の伝承を行って
いる。平成九年十一月文化庁長
官章を受章。平成十年十一月黄
綬褒章を受章。

鈴木家の系図

初代

鈴木三郎 弘 力

せきかわ文芸

関川俳句の会作品

小さき葉舞う長閑さや竹の秋

佐藤 ノブ

大櫛ゆうゆう芽吹く医師屋敷

渋谷 くに

枸橘の花高々と少年期

渡辺しづい

温む池昨日と違ふ水の色

五十嵐貞子

仏前に村上新茶供えけり

青木 慶一

初燕待ち人來たる感じあり

南 セツ

せきかわ川柳会作品「素性」、「文字」、「雑詠」

読めなくも文字褒めてる書道展

佐藤 ノブ

我が家では血筋の良さはペットだけ

渡辺しづい

隠しても人柄に出る氏素性

南 セツ

春だよと雪山拝む老の幸

高橋 イツ

同じ筆使って友の文字光る

平田 千恵

文貫い筆の走りに心うつ

本間 イミ